

日本銀行
帯広事務所長

水川 達生



受験シーズン真っただ中だ。当の受験生はもちろん、周囲の関係者も気が気ではないだろう。これから入試に臨む受験生には持てる力を出し切ってほしいと願ってやまないが、入試前後の落ち着かない気分や独特の緊張感決して心地よいものではなく、それを一度でも経験したことがある読者の中には「受験（勉強）はもうこりこりだ」

という方も多いのではないかと。その一方で、「学校でもっと勉強しておけばよかった」という社会人のつぶやきを耳にすることが少なくないのは、何とも皮肉に思える。仕事が思うように進まないときや同僚の優れた仕事ぶりに接したときなど、そ

の問題もあつてまなならず、「学校でもっと」と悔やむことになるというわけだ。さらに悩ましいのは、人生100年時代とも言われる今、たとえ若いころに学校でしっかり学んだとしても、それで十分と

は言えなくなってきたこと。は足りず、学び続ける必要があるだろう。

るだろう。

社会人の学び直し

学び直しの必要性を意識せざるを得ないのは、企業も同じ

見地味で迂遠（うえん）なアプローチに思えるかもしれないが、有効な手だてだ。

う感じる理由や場面はさまざま

だ。

だ。デジタル化の進展に加え、

しにくい変化の時代にこそ、学

だろうが、それでは実際に仕事と並行して思う存分勉強できるかという点、時間の制約や費用

長寿化が進むにつれ、人が働く（働かなければならない）年数は長くなっている。終身雇用

給が引き締まった状態を続ける中、企業は業種を問わず、最新

びの持つ意義は大きい。十勝で言えば、幾多の困難に見舞われ

制度の下、新卒で入った会社で定年まで勤め上げるといった従

採用を強化する必要性に迫られると同時に、既存の従業員の生産

の発展を遂げてきた農業が好例と言えるだろう。読者自身や読者が所属する組織はどうだろうか。個人、企業ともに、社会人の

必要な知識・スキルを習得するための自己啓発や学び直しがますます欠かせなくなってくる。ま

この鍵となるのが、従業員に対する

の学び直しの取り組みを着実に進めたい。

かちまい 論壇